

日本の文化施設に映画フィルムは何本あるのか

～平成 26・27 年度文化庁文化芸術振興費補助事業「記録映画のデジタル保存・活用調査研究」～



記録映画保存センターでは、平成 26 年度に続き 27 年度も日本国内の文化施設に向けて映画フィルム所蔵調査を行いました。美術館・博物館・公文書館・視聴覚ライブラリーの他、図書館、公民館にも範囲を広げ調査した結果、フィルムを所有する施設数は、26 年度 27 年度を合わせ 683 施設、所蔵本数は 20 万本を超えました。この調査をもとに、劣化の進行しているフィルムの安全な保存やデジタル化、利活用に結びつくよう、今後とも活動に努めてまいります。尚、平成 28 年度も引き続き調査を実施しています。

〈平成 26 年度・27 年度合計 アンケート 17 項目の中から抜粋〉

調査対象とフィルム所有本数 (フィルム所有本数は概算です) 🗳️ 数多くのフィルムが所蔵されていることがわかりました。

	アンケート発送数	アンケート回答数	フィルム所有施設数	フィルム所蔵本数
美術館 (26・27 年度合計)	560	299	42	1,305 本
博物館 (26・27 年度合計)	2,550	1,335	303	39,296 本
公文書館他 (26 年度)	97	62	27	6,246 本
視聴覚ライブラリー (26・27 年度合計)	494	226	202	141,708 本
図書館 (27 年度)	1,206	643	96	16,574 本
公民館 (27 年度)	594	186	13	567 本
合計	5,501	2,751	683	205,696 本

いつ頃のフィルムか? (施設数)

🗳️ 戦前のフィルムも多くあることがわかりました。

所蔵フィルムの年代	全施設合計	美術館 (26,27 年度合計)	博物館 (26,27 年度合計)	公文書館他 (26 年度)	視聴覚ライブラリー (26,27 年度合計)	図書館 (27 年度)	公民館 (27 年度)
1945 年以前 (戦前)	108	6	74	9	8	11	0
1946 ～ 1955 年	102	4	55	12	22	9	0
1956 ～ 1970 年	266	17	122	20	79	25	3
1971 ～ 1980 年	327	17	124	9	130	41	6
1981 ～ 1999 年	331	15	102	11	145	50	8
2000 年以降	111	3	15	3	75	14	1
未確認	132	4	38	3	56	28	3

* 視聴覚ライブラリーには、一部、図書館、生涯学習センター等も含まれます。

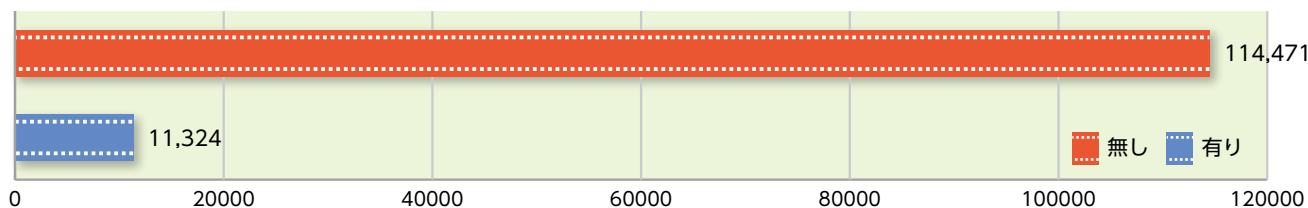
どんなジャンルのフィルムを所有しているか?

🗳️ 記録映画、教育教材映画を所有する施設が多いようです。

	作品本数	施設数	作品本数	施設数	作品本数	施設数	作品本数	施設数	作品本数	施設数
劇映画 (邦画)	1 ～ 100 本	122	101 ～ 200 本	11	201 ～ 500 本	2	500 本以上	2	未確認	40
劇映画 (洋画)	1 ～ 100 本	34	101 ～ 200 本	2	201 ～ 500 本	2	500 本以上	1	未確認	33
アニメ	1 ～ 100 本	123	101 ～ 200 本	45	201 ～ 500 本	32	500 本以上	1	未確認	43
記録映画	1 ～ 100 本	285	101 ～ 200 本	15	201 ～ 500 本	9	500 本以上	4	未確認	64
教育教材 (学校・家庭・社会)	1 ～ 100 本	171	101 ～ 200 本	35	201 ～ 500 本	66	500 本以上	44	未確認	65
ニュース映画	1 ～ 100 本	55	101 ～ 200 本	2	201 ～ 500 本	8	500 本以上	4	未確認	32
美術作品 (実験映画など)	1 ～ 100 本	26	101 ～ 200 本	2	201 ～ 500 本	1	500 本以上	0	未確認	23
民俗・無形民俗文化財の記録	1 ～ 100 本	127	101 ～ 200 本	3	201 ～ 500 本	3	500 本以上	1	未確認	39
アマチュア・市民の作品	1 ～ 100 本	62	101 ～ 200 本	4	201 ～ 500 本	3	500 本以上	1	未確認	26
その他 コレクション等	1 ～ 100 本	41	101 ～ 200 本	2	201 ～ 500 本	5	500 本以上	2	未確認	22

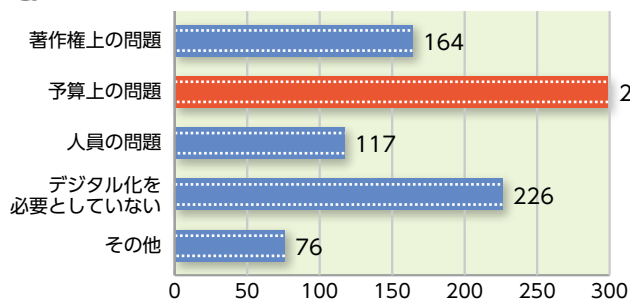
デジタル化はどのくらいできているか？ (作品タイトル数)

多くのフィルムはデジタル化できていません。



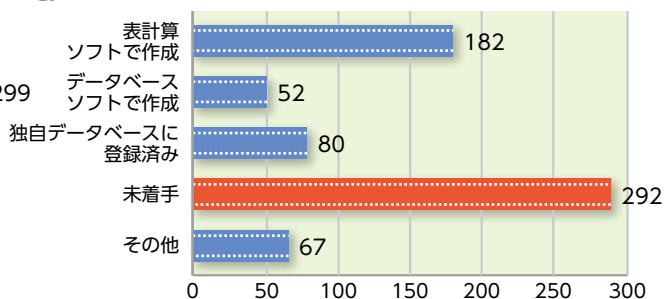
デジタル化できない理由は？ (施設数)

予算の問題は大きいようです。



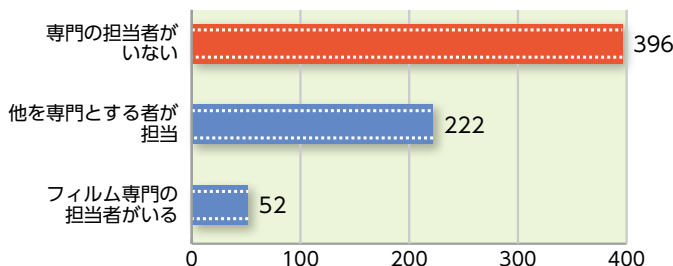
作品データベースを作成しているか？ (施設数)

データベース化できていない施設も多くあります。



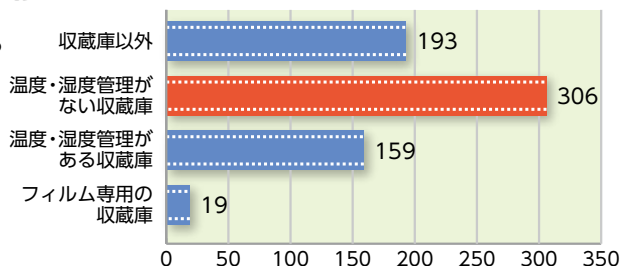
映画フィルムの専門家を配置しているか？ (施設数)

フィルムの専門家は少ないようです。



所蔵フィルムの保存環境は？ (施設数)

フィルムに適した環境での保存は難しいようです。



フィルム所蔵施設への現地調査

平成26～27年度にかけて、37ヶ所の施設に現地調査のご協力をいただきました。調査票の集計結果以外にも、フィルムを所有する施設の現状、抱える問題等が明らかになりました。

- フィルムを段ボール箱やポリ容器に入れ、スチール棚で常温保管しているケースが目立ちました。
- 長期間密封状態にあったフィルムは劣化が激しく、ご担当者がそのことに気づいていなかったケースも多く見受けられました。
- オリジナルネガ原版と複製プリントを区別なく保管しているケースが多々ありました。
- 可燃性フィルムが複数確認されました。可燃性とはわからずに保管されているケースもありました。
- 温湿度の高い地域は低い地域に比べ、フィルムの劣化がより進んでいるように感じました。
- 「デジタル化済み」とされていてもマスターテープ等にあたるものはなく、VHS、DVDのみしかないという施設が大半でした。
- デジタル化の費用が高く、またどのようなフォーマットに変換するのがよいかわからず困っているという施設が多々ありました。
- 著作権の解釈も曖昧で、複製の判断ができずにいるご担当者も多くいらっしゃいました。
- フィルムの劣化が進み、保存が難しいと感じながらも、フィルムセンター等、他の機関への寄贈は難しいと考える施設が多々ありました。
- ごく一部ではありますが、フィルムの保存方法について工夫を試みている施設もありました。
- 数ヶ所の施設からフィルムを借用し、約60本ほどをデジタル化しました。劣化が激しいフィルムも多くありましたが、映し出された映像はどれも貴重なものでした。デジタル化の際、可燃性フィルムであることが判明したフィルムについては、所有施設のご判断により、フィルムセンターへ寄贈されるケースもありました。